

展開研究 受賞者インタビュー



ポスター発表



総合科学部の必修科目である展開研究では、学生が自主的にテーマを考え論文を作成し、ポスターを使って発表を行います。

二年次前期に取り組むこの展開研究には、優れた論文に贈られる論文賞と、優秀なポスター発表者には発表賞が設けられています。毎年学生を悩ませるこの必修科目ですが、見事賞を獲得された平成十五年度の受賞者のお二人にインタビューをしました。今後取り組み皆さんの参考にしてください。

論文賞受賞

高見駿郎さん



高見駿郎（たかみ はやお）さん
環境共生プログラム
テーマ「都市の中心市街地活性化について
《持続可能な地域を育てるために》」

テーマを決めたきっかけを教えてください。

軌道系の交通機関が好きなので、広島路面電車には前からあこがれていました。入学試験のときや、アパート探しのときに一日乗車券で乗って広島を見て回り、そのとき、紙屋町とかの中心地に比べて、同じ沿線でも東千田とか宇品とかはにぎわいぶりが陰って

いるようで、きつと昔はこうじゃなかったのでは、と思いました。

それから、アストラムラインで沿線を見れば、両側の山はかなり高いところまで宅地化が進んでいました。それは、冬に路面が凍結した場合には非常に危険なので、雪国育ちの私にはちよつと考えられなかったんですよ。だから、そういうところを開発して宅地にするのは問題があるんじゃないかと思ったんです。そして、路面電車の沿線で人通りの少ないところがあるのは、ああいう郊外の新興住宅地に移る人が多くなったからかなと思いました。それらのことがすごく印象に残ったんです。

ですから、一年の後期にあつた展開研究についての説明会の後には、おおよそこのような事を書こうと思っていました。

そのときは中心市街地の活性化という題目で届けたのですが、中心市街地というのは紙屋町とかだけでなく、デルタ地帯（広島市内の太田川、本川、猿候川などの河川の流域で、宇品、段原、江波、千田などの旧市街地のこと）と呼ばれている地域のこと書こうと考えていました。

ただ、骨格を作つて担当教官に見せたとき、これは卒論にすべきで、展開でやったら時間

が足りないと言われました。そのアドバイスでもう少し間口を絞つて書こうと思い、ちよつと気が楽になりました。

雪国とおっしゃいましたが、具体的に
はどこのご出身ですか？

青森県の弘前です。

え、青森県からわざわざ広島まで？
お仕事を退職されてから大学に？

ええ、平成十二年の夏、新聞でフェニックス入試を行うというのを見て、やってみようかなと思いました。定年後何をするか具体的には決めていなかったけれど、通信教育か何かで勉強したいなと思っていたので、すぐに入試要項を取り寄せました。

そのころ他の大学では、人間科学部“とかいう仰々しい名前の学部が新設されたのは知っていました。広島大学では総合科学部という名で、文系と理系を融合した形で学べるとうあったので、そこに魅かれて応募しました。平成十三年三月末、退職の辞令を受け取つたその日の夜行で東広島市へ引っ越してきました。

『執筆は計画通り行きましたか？』

いいえ。春休みにほぼ資料集めを終わって四月になったら執筆し、五月の連休頃に完成させようと計画していたんです。しかし、二セメと三セメは怪我のため休学していたのですが、体調がなかなか回復しないのと、母親の昏睡状態が続いたので、資料集めができなまま春休みが終わりました。そのせいで全然計画通りに行かなくて、書き始めたのが連休終わってからでした。

『書き上げたのは締め切りのどれくらい前だったんですか？』

だいたい一週間前ですね。でもまだ富山市の可処分所得（個人所得のうちから直接税と社会保険料を控除したもの）が高い理由が書いてある資料が見つかりませんでした。これについてはきちんと書きたかったので、新聞を読んだり、富山市経済研究所のホームページを見てみたり市役所に直接電話をかけたりました。しかし、それでもわからなくて、結果的には締め切りの三、四日前に、朝日新聞が年一回出している「民力」（国勢調査などの各種統計を冊子にまとめて発行する統計

年鑑）に書いてあるのを見つけて書き足しました。これでいいなと思ったのは二日前です。

提出後読み返したんですけども、内容に不満な点が何カ所も目に付きました。それでも期日までには間に合ったのであよかったとほっとしている状態でした。

『苦労した点は資料集めですか？』

そうですね、資料は主に大学内の図書館で専門雑誌のバックナンバーや、国勢調査の報告書（地下倉庫には抜粋ではなく報告書そのものがある）を中心に調べ、今の広島を調べるためには広島市に出向いて専門書を何冊か購入しました。

他にインターネットで国土交通省、総務省、地方自治体（札幌市、仙台市、広島市、福岡市など）のホームページを利用しました。

『直接資料集めに行ったところはありますか？』

テーマがテーマだけに公共機関に行ってみるのが主になるのですが、一度広島市役所に行って聞いただけです。他にもたくさん行く予定でしたが、学校が始まってしまっ

ては行けませんでした。

でも、四月二十五日に広島修道大学の商学部主催の「学生たちとまちづくり」というシンポジウムに行つて参加してきました。

修道大学のシンポジウムは、どちらかといえば人を呼び込むにはどんなイベントをするかがメインテーマのような感じで、私の考えている、どうしたら恒常的に中心地に住み集うかとは少しポイントが違うようでした。しかし、パネラーを務めた各大学（長崎大学、日大芸術学部、高知女子大、修道大）の学生はそれぞれ個性的で、中でも日大芸術学部の江古田（大学の所在地）の商店会長と丁々発止やりあつた話は刺激的で考えさせられました。

最初の気になった点（山を削つての宅地開発）について資料集めをしているうちに、広島の特長事情（傾斜地が七割で、平坦地が三割くらい）がわかってきて、電車の窓から眺めた印象だけのことを済ませては単なる作文で終わってしまうなと自戒したところです。

『展開研究に取り組んでよかったところはどこですか？』

よそから移ってきてまだ日が浅い私の目に

映る広島と、長年そこに住み慣れた地元の人たちが思う広島は、当然違うということを感じてきました。路面電車にノスタルジアを感じる私と、時間との戦いを余儀なくされている地元の通勤者にとって、定時制のある地下鉄や車の運行がスムーズになる軌道のある道路の開放の方が切実な問題であることなどを知りました。資料集めをしていて、後になればなるほど、こうしたことや知りたかったこと、欲しかった資料に出会いました。

また、自分の足で現地に出かけ、そこでの生の声を拾うことも重要であると感じました。例えば、皆実の自転車屋さん、都市計画道路ができたことでの街の変わりやなど、そこに住んでいる人の目を通して語ってくれた内容はとても印象深いものでした。私にとっても貴重なものをつかんだような気がします。

資料を集めて、書いて、考える、そしてポスター発表をするという展開研究を課す大学の意図がよく理解できたと思います。

これから展開研究に取り組む人にアドバースを。

計画通り進まず、期限ぎりぎりに提出した

身としてはアドバースなどおこがましいのですが、平常の講義での与えられた課題をこなすというのとは違い、最初から最後まで自分の力だけで行うのですから大変といえば大変ですよね。(テーマが決まらなかつたら)自分の好きなことや、こだわっていることなどを例えおたくっぽい見地であれ思いの通り書けば良いのではないのでしょうか。授業の他にサークルやアルバイトでなかなか時間が取れないでしょうけど、前向きに取り組んでください。

それと、一年休学したあと、一緒に入学した同期の人を一年ぶりに見たとき、それまでは子供っぽかったのにみんなすごく大人びた顔つきで成長した感じでした。他にもいろいろあったからなのでしょうけど、こういうのを一年間もがき苦しんだからかなあと。

長時間お話ししてくださってどうもありがとうございました。

展開研究授賞式 & ティーパーティーの様子



ティーパーティーの様子



展開研究授賞式 & ティーパーティー
展開研究の授賞式は平成十五年十一月二十六日、総合科学部学部長室で行われました。
受賞者には賞状と記念品が手渡されました。
その後、受賞者と先生方でのティーパーティーが開かれました。展開研究のテーマを決めたきっかけや経緯などが話題に上り、笑い声も混じりながらの和やかな会となりました。

論文賞・発表賞受賞

筒井志歩さん



筒井志歩 (つつい しほ) さん
環境共生科学プログラム
テーマ「賀茂台地における赤瓦研究」

テーマを決めたきっかけは何ですか？

テーマ設定は大事だと思っていました。最初に出したテーマは確か「主観と客観」というすごく哲学的なテーマでした。テストの前で勉強しなきゃならないのに展開のことなんて考えてられないよーって、とりあえず適当に出しちゃって(笑)。だけどあんまり抽象的すぎたし、図書館にもりつきりで机の上で本と向き合って調べるのばかりは嫌だなと思いました。

テーマを変えたのは二回目の提出(春休みくらい?)のとき。出来れば現地に取材に行

けるようなテーマのほうが自分としても面白いし、時間や自分の移動手段を考えると東広島市という地域に密着したテーマが良いなと思いました。

でも一番の決め手は、初めて東広島に来たときからずっと瓦が赤いことに疑問を持っていて、この機会に調べてみようと思ったことでした。「西条の赤瓦研究」がテーマ名だったのですが、赤瓦の分布図を調べたかったです。

計画を立てて進めていましたか？

担当教官の先生から、計画書をいただきましたが、最初から細かく厳密に決めてはいませんでした。もちろん期間は意識していましたが、これが分からないから次はこれを調べてみようという感じで、自分の興味のおもむくままに行動していたように思います。文章にまとめるのにはそんなに時間はかからないのと、中身が重要だと思っていたので、情報収集には時間をかけました。

どういう風に展開研究を進めていきましたか？経緯を教えてください。

ちゃんと調べ始めたのは二月ごろ、春休みに入ってからです。本を探したり、瓦工場に

電話をし、その社長さんに直接会って話を聞かせていただき、そこから得た情報からまた調べたりと、最初は瓦のこと自体について(例えばどういう風につくられるのか等)基礎知識を身につけるために本を片端から読んでいきました。瓦だけについて書かれた本は無かったので、基礎知識とアイデアを得るために結局20冊くらい読んだと思います。でもなかなかいいアイデアが思いつかなくて、時間ばかり過ぎて焦りました。

春休みの終わりにオーパックを見ていたら、まだ読んでいない瓦の本が文学部の地理学研究室にあったので、直接行って先生にお願ひして貸してもらいました。その時に総合科学部の展開研究で西条の赤瓦について調べていることを話したら、文学部に赤瓦について卒論を書いた学生がいると教えられたんです。その時は情報があったという嬉しさで、既に調べている人がいたのかというショックの半々でした。同じ研究だったら私が赤瓦を調査する意味がないと思いつつも、とりあえずその卒論を読んでみることにしました。読んでみると赤瓦というのは同じでも、アプローチの仕方が違っていることが分かったのので、その人の参考文献をチェックして本を探して読んでみると、使える情報は使いました。また、その人が赤瓦を調べるのにも、瓦だけではなく東広島市の歴史・風土の本を沢山

読んでいるのを見て、赤瓦が使われている土壌を知る必要性を感じ、また何冊か本を読みました。

そうやって資料を集めていく段階で赤瓦の分布図を作っている人がいないと分かり、これは自分のオリジナルが出来るのではないかと思いました。でも分布図を作るといっても交通手段は自転車だけで、広島だけでなくかなりあるし、どうしようって途方に暮れました。広島瓦屋さんを全部当たってみようかとも考えましたが、ものすごい時間とお金がかかるので諦めました。

社長さんに聞いても大体のところしか分からなくて、やっぱり無理かなあと思っていた時、図書館で本の題名だけ見いたら『空からのフォークロア』という本を見つけて、空中写真を利用して地図に情報を落としていけばいいかなと思いついたんです。それで、文学部の地理学研究室の先生と先輩方に相談したところ、ちょうどその研究室に東広島市の空中写真があったのでそれを見せてもらいました。でもすごく古くて、赤瓦かどうか判読しにくく、今度は国土地理院の広島支局に行って比較的新しい写真を見せてもらいました。そして一つ一つの写真の赤瓦の家を数えただんです。本当に一軒一軒。かなりがんばって呉から黒瀬、賀茂台地とたどっていったんですが、すごく時間がかかってしまいました。

新学期に入っても全然進んでなくて間に合わない！って(笑)。

このままいくと、判読するのに一年はかかりそうだったので、分布図を作成することを諦めていました。そんな時、図書館に行ったら、もつと大まかな空中写真を見つけてきました。これだったら、県全域の瓦の状態が分かるかも！と思いい、早速調べてみました。今度は屋根を数えるのではなく、見たときに赤瓦地区とそうでないものというように三段階くらい自分で基準を作って、その基準と比較しながらどんどん地図に落としていきました。空中写真も各市町村に最低一枚というような写真集だったので、精密さでは以前使っていた空中写真よりもかなり劣りました。しかも私の主観が入ってしまうという問題もありました。しかし、おおよその傾向をつかむことはできました。私の予想したような分布、東広島地域とその周辺に赤瓦が多く使用されている、ということがその分布図に表れており、できた時には感動しました。

そして今まで集めた情報から考察して、自分なりの結論をだして論文を書き上げました。結局提出期限の一週間前くらいに書き上げて、先生に提出しました。

参考文献などの資料はどうしましたか？

本はほとんど図書館で借りました。大学はもちろん市立図書館・黒瀬町の図書館にも行って、風土や歴史などの本も読みました。

展開研究で苦労した点・やって良かったと思う点を教えてください。

苦労というか、とにかく調べていて楽しかったです。色々な人に会って直接話を聞いたり新しい知識も得られるし、自分が仮定していたことが分布図に表れたり、そこからまたいろんなことが分かったりしたのが面白かったですね。

今はレポートのために本を読むときでも「本当にこうなの？」という疑問を持ったり、自分で調べてみようという姿勢や常に考えるくせがついたように思います。

また、今回の展開研究を通して、本当に自分は何も力がないなあとしみじみ感じました。最初は何もわからなかったし、常に試行錯誤の連続で、ちゃんと分布図出来るのかっていう不安がありました。でも、出来ないということを知ることは全然悪い事ではなくて、次のステップに上がるチャンスなのだということを学びました。そういう意味ではとても良い経験でした。

「オリキャンと展開研究は同じ時期で大変でしたか？」

私はオリキャンには参加しませんでした。でも、私の友達にはオリキャンと展開研究を両立していた人もいましたし、春休みは後期の期末テストが終わってから二ヶ月あるので、その時間を上手に使ったら大丈夫だと思います。授業が始まると展開以外の勉強もありますし、平日は講義があつて動きにくいですが、春休みはたっぷり時間があつて、平日でも動けるので研究には最適な時期だと思います。だから、出来るだけ春休みに情報収集しておいた方がいいと思います。

●ポスター発表

「先生から指導はありましたか？」

ポスター発表について先生からは、自分で考えた大まかな下書きに対するアドバイスをいただきました。

「発表の際に気をつけた点はありましたか？」

ポスターを作るときに心がけたのは、見側の視点にたつということでした。写真や図が多いほうが文章ばかりのものより見やすいと思いましたし、初めて見る人にとって、論

文の流れがわかることが重要なので、ただ並べるのではなくきちんと筋を通して図や文章を構成するようにしました。発表の際の質問に備えて、自分の論文を経済学部の友達に読んでももらい、わからない箇所を指摘してもらって、それに答えられるようにしておきました。でも実際にそこを聞かれることはありませんでした(笑)。

「先生にはどんな質問をされましたか？」

主に研究の動機、論文の内容について聞かれました。「ここはちよつと矛盾してない？」という鋭い指摘をいただくこともありました。私は考えもしなかつた面を指摘してくださる先生もいて、とても勉強になりました。私自身、発表段階で完成じゃないと思つていたので、自分ではわからない弱い点を指摘してもらえるチャンスだと思ひ、言われたことはメモして参考にするようにしました。

「15生へのアドバイス&メッセージをお願いします。」

テーマを決める段階で自分が興味があつて、出来れば情報が得やすい、せっかくだから図書館だけじゃなくて外に出て調べられるテーマを選んだら良いんじゃないかと思ひま

す。実際私がそういうテーマを選んで正解だったなあと思うので。もちろん人それぞれだと思ひますが、私は人と会うのが好きだし、図書館ですつと本と向き合つてというのは嫌だつたので、そういう人にはお勧めです。

担当教官の先生の専門と自分がやりたいテーマが必ずしも合うわけではないですが、先生は論文の書き方、調べ方について適切にアドバイスをくださいます。つまづいたら、自分の殻に閉じこもるのではなく、まず相談してみましよう。広大には本当に色々な先生がいるので、積極的に聞きに行つたら良いと思います。

また、展開研究では何よりも壁にぶつかつてほしいです。今の自分の位置を知るのはとても大切なことなので、期限に間に合わせるためにコピー&ペーストじゃなくて、一生懸命に取り組んでほしいと思ひます。展開研究では完成させるのが目的ではなく、自分を知るといふことが大切なのだと思ひます。

「今日はどうもありがとうございました。」

(担当 15生 津田 宏美・熊 美里)